

第2学年 外国語科学習指導案

ろ組 男子17名 女子17名 計34名
指導者 HRT 金崎 英俊
ALT Christopher Sneller

1 単元 “How many?” ～あてっこしよう！いくつあるのかな？～

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、第1学年での「ハローイングリッシュ」や「くだもの、だいすき」、「どうぶつ、だいすき」の学習を通して、英語での簡単なあいさつの仕方や、動物や果物等の身近にあるものの英語に慣れ親しんできている。そして、外国の絵本「さんびきのこぶた」の読み聞かせや、クリスマス等の行事の体験活動を通して、日本と外国の文化の共通点や相違点を体験的に理解してきている。また、お店屋さんごっこや、天気や方向を表す英語を使ったゲーム活動を通して、友達やHRT、ALTに自分のことを伝えたいというコミュニケーションへの意欲が高まってきている。さらに、6年生の英語劇「桃太郎」を鑑賞することで、「自分も英語で話してみたい」「英語を使えるようになりたい」という願いが高まってきている。

そこで、本単元では、数や数を尋ねる英語を使って友達と楽しくゲーム活動を行うことを通して**英語に慣れ親しむだけでなく、互いの思いを伝え合うコミュニケーションのよさや楽しさに気付かせたい。**また、**感謝や賞賛の言葉、ジェスチャーを付け加えること等のコミュニケーションを工夫する大切さ**にも気付かせたい。

(2) 指導の基本的な立場

子どもたちにとって、持っているカードの枚数を比べたり、なわとびで成功した回数を記録したりする際に使う等、数は身近な存在である。また、アニメやゲーム等の名前には数が英語で使われていることが多く、英語の数にも生活場面でふれることが多い。そのため、自分のお気に入りのものがいくつあるかをクイズにして、簡単な英語を使って尋ねたり答えたりすることは、楽しく活動ができそうだという期待感があるものとして魅力があると考え。また、そのような活動を設定することは、子どもたちの「相手に伝えたい」「答えたい」というコミュニケーションへの意欲を高めるのに適している。さらに、数や数を尋ねる英語に慣れ親しませたり、活動の際に、感謝や賞賛の言葉、ジェスチャーを付け加えることの必要感を子どもにもたせたりすることにも適している。

このようにコミュニケーションを図る楽しさを味わわせたり、数を尋ねたり答えたりする英語に慣れ親しませるために、子どもが意欲的に取り組めるようなゲーム活動やコミュニケーション活動を設定していきたい。そして、「自分の考えを英語で伝えたい」「英語を使いたい」という子どもの願いが高まっていくような活動を展開していきたい。

具体的にはまず、HRTとALTでお気に入りのものを紹介するスキットを見せることで、本単元ではどのような活動をしていくのか見通しをもたせ、学習への意欲を高める。また、リズムチャントや「seven steps」などの歌、様々なゲーム活動等を通して、日本語と英語の発音の違いに気付かせるとともに、数を表す英語に慣れ親しませる。次に、HRTとALTによる感謝や賞賛の言葉、ジェスチャーのないスキットを見せることで、コミュニケーションには、他にどのような工夫をすればいいのかグループで話し合わせる。そして、話し合ったことを基に、ペアやグループ等で練習をしたり、気付いた点を全体で交流したりして、互いの表現を高め合う。さらに、**英語で数を尋ねたり答えたりする活動を通して、必要な英語を慣れ親しませるとともに、感謝や賞賛の言葉、ジェスチャーを付け加えることでコミュニケーションがよりスムーズになることを実感させる。**

このような学習を通して、どのようにコミュニケーションがよくなるかを考え、友達と協働しながら高め合い、コミュニケーションを図る楽しさを味わうことができると考える。

(3) 子どもの実態 (対象者：2年ろ組34名 数値は延べ人数で、結果は主なもののみ表示)

① コミュニケーションへの関心・意欲・態度について

ア HRT や ALT, 友達と英語を使ってあいさつをしたり、ゲームなどをするのは楽しいか。

<はい(33)>

- ・ゲームなどが楽しい (24)
- ・ALT がおもしろい(6)
- ・英語を覚えたり話したりするのが楽しい(3)

<いいえ(1)>

- ・1回も当たらないから (発表)(1)

イ 英語を話したり聞いたりしたいと思うか。

<はい(30)>

- ・英語が楽しいから (18)
- ・英語を覚えたいから(6)
- ・外国の人と話したいから(3)
- ・外国に行きたいから(3)

<いいえ(4)>

- ・難しいから(4)

② 数を表す英語への慣れ親しみにについて

○ 1～20までの数を英語で言えるか。(聞き取り形式)

- ・1～10(9) ・1～11(9) ・1～12(6)
- ・1～19(2) ・1～20(8)

③ 学習・生活経験に関する内容について

ア 外国語の授業でどのような活動が好きか。

- ・ゲーム活動(34) ・クイズ(28) ・あいさつ(30)
- ・本を使った活動(29) ・歌(28)
- ・英語を使って話したり聞いたりすること(15)

イ HRT や ALT, 友達と話をしたり聞いたりするときどんなことに気をつけているか。

話すとき	聞くとき
大きな声で話す(20)	相手を見る(3)
ゆっくり話す(10)	だまって聞く(5)
相手を見る(2)	

本学級の多くの子どもが、英語を使ったあいさつやゲーム活動をするに対して好意的である。(①-ア)

また、多くの子どもが英語を話したり聞いたりすることに対しても好意的である。しかし「いいえ」と答えた子どももあり、既習の英語を使って話したり聞いたりすることにまだ自信が十分にもてていないと考える。(①-イ)

本学級の全ての子どもたちが、英語で1～10の数を言うことができた。また20までの数を言うことができる子どもも約20%いた。これまでの英語の学習だけでなく、生活場面の中で数を表す英語にふれているからではないかと考える。一方、10以上の数について11と12のどちらもが言えた子どもは約半数にとどまった。生活場面において十分にふれる機会がないと考える。(②)

本学級のすべての子どもがゲーム活動に好意的である。一方、英語を使って話したり聞いたりすることについて好意的である子どもは半数以下であ

た。学習した英語をつかって友達とやりとりをする楽しさや達成感を味わう経験が少ないからではないかと考える。(③-ア)

話すことや聞くことについて気を付けていることは、「大きな声で話す」「相手を見る」等の意見が多かった。これまでの経験だけでなく、国語などの他教科の学習の影響が大きいと考える。また、ジェスチャーなどの方略的能力についての意見が出ないことから、これまで子どもたちが、あまり意識していないことが分かる (③-イ)

(4) 指導上の留意点

ア 「活動のめあてを立てよう」では、数や数を尋ねる英語に十分にふれる機会を作るために、HRT と ALT で互いのお気に入りのものを紹介するスキットを行う。その際、本単元で中心的に扱う "How many?" については、ゆっくり話したり繰り返したりして強調することで、児童が新しい英語に気付き自信をもって活動に取り組めるようにする。また、主体的に学習できるよう単元の学習に見通しをもたせるために、HRT や ALT, 友達に「自分のお気に入りのものを英語で紹介する」といった目的意識をもたせていく。

イ 「数の尋ね方や答え方に慣れ親しもう」では、まず、英語での数の言い方や尋ね方に慣れ親しませるために、リズムチャンツやゲーム活動を行う。その中で、eleven と twelve については、繰り返し練習させることで、子どもたちが慣れ親しむことができるようにする。

ウ 「自分のお気に入りのものを紹介しよう」では、よりよいコミュニケーションを図るには感謝や賞賛の言葉、ジェスチャーを付け加える必要があることに気付かせるために、それらを省いたスキットを行い「問題を出す人はどんな工夫ができるか」「答える人はどんな工夫ができるか」と問う。その後、コミュニケーション活動の際には、感謝や賞賛の言葉が大切であることを共有し実践させるために、気付いたことを交流する場を設ける。

3 目 標

- (1) HRT や ALT, 友達と楽しくゲーム活動を通して, 積極的に英語で数を尋ねたり答えたりする。
- (2) 数を表す英語について, 外来語と英語の発音の違いを体験的に理解する。
- (3) チャンツやゲーム活動を通して, 数を表す英語や数を尋ねる英語に慣れ親しむ。
- (4) HRT や ALT, 友達に英語で数を尋ねたり答えたりするだけでなく, 感謝や賞賛の言葉, ジェスチャーを付け加える等のコミュニケーションの工夫を図る。

4 指導計画(全4時間)

思考の高まり	過程	学習課題と主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
英語で数を言うときは日本と発音がちがうな。数を英語で尋ねたり答えたりするにはどうするとよいだろう。	意欲をもつ	Let's Play With The Number. <ul style="list-style-type: none"> ・ HRT と ALT のスキットを見る。 ・ 学習のめあてを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本単元で扱う英語に気付け見通しをもたせるために, HRT と ALT によるスキットを行う。その際に, 数や "How many?" を強調するために, 声を大きくしたり, ゆっくり話したりする。 ○ 数を表す英語と日本語の発音の違いに気付けさせるために, アクセントを意識したリズムチャンツを行う。 ○ 数や数を尋ねる英語に慣れ親しませるために, ペア, グループ等と活動形態を工夫をする。その際に, 次の "How many?game" に自信をもって取り組めるようにするために, "How many?" や英語の数を繰り返し子どもが発話できるようにして英語に慣れ親しませる。 ○ よりよいコミュニケーションには何が必要か考えさせるために, 感謝や賞賛の言葉, ジェスチャーを省いたスキットを見せ, 意見を交流しどのような工夫が必要か話し合う場を設定する。 ○ 本単元での達成感を味わわせるに, 英語を使うことができたか, 感謝や賞賛の言葉, ジェスチャーはできたか等の観点を設定し, 互いに感想を交流したり互いの発表を賞賛する場を設定する。
英語で数を尋ねたり答えたりする方法を知ることができたよ。ゲーム活動を通して言い方に自信がついたよ。	つかむ	英語で数を尋ねたり, 答えたりしよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リズムチャンツをする。 ・ ナンバーバスケットゲームをする。 ・ 感想を交流する。 	
たくさんの友達と尋ねたり答えたりしたいな。言葉を付け加えたりジェスチャーをつけたりして会話ができるといいな。	挑戦する・広げる	Let's Play Games. <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌 (seven steps) を歌う。 ・ HRT と ALT のスキットを見る。 ・ リズムチャンツをする。 ・ キーワードゲームをする。 ・ ルーレットゲームをする。 ・ 感想を交流する。 	
自分のお気に入りを紹介できたよ。英語は楽しいな。もっと尋ねたり答えたりしてみたいな。	振り返る・生かす	Let's Play "How many ?game" I . <ul style="list-style-type: none"> ・ HRT と ALT のスキットを見る。 ・ ルーレットゲームをする。 ・ コミュニケーションの工夫 (賞賛の言葉) について話し合う。 ・ "How many?" ゲームをする。 ・ 代表が発表する。 ・ 感想を交流する。 	
		Let's Play "How many ?game" II . <ul style="list-style-type: none"> ・ HRT と ALT のスキットを見る。 ・ コミュニケーションの工夫 (感謝の言葉) について話し合う。 ・ "How many?" ゲームをする。 ・ 代表が発表する。 ・ 感想を交流する。 	
		 <p>英語で数を言えるようになった。友達に尋ねたり答えたりするのが楽しい。</p>	

5 本 時 (3 / 4)

(1) 目 標

お気に入りのものの数をクイズ形式で紹介する活動を通して、進んで数を尋ねたり答えたりする等、積極的にコミュニケーションを図る。また、よりよいコミュニケーションを図るためには、どのような工夫が必要か気付く。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、思考の高まりを意識した学び合いが重要だと考える。そこで、HRTとALTによる賞賛の言葉やジェスチャー等がないスキットを提示し、「どのような点が不足しているのか。どのような工夫が必要か。」と問う。その後、互いの考えを交流する場を設定することで、賞賛の言葉やジェスチャー等のコミュニケーションの工夫をすればよいことに気付かせる。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	使用英語等	時間	教師の具体的な働きかけ
意欲をもつ	1 Watcing Skit. 2 Meeting Today's Target Let's play "How many? game." ・ 数当てゲームをしよう。	A:Hello. I'm Christopher Sneller. H:I'm Hidetoshi Kanasaki. A:How many ~s?. H:Seven? A:Yes.	10	○ 本時の学習の見通しをもたせるために、HRTとALTによるスキットをする。また、めあてを焦点化させるために、「どんな場面だったか。」と問い、「数を当てるクイズを出していた。」などの言葉を引き出すようにする。
つかむ	3 Practice 4 Roulette Game 英語で数を尋ねたりや答えたりすることに自信がついてきたよ。	11や12を繰り返し練習して、今まで以上に言えるようになった。	10	○ Practiceに必要感をもたせるために、1～20の数を黒板に掲示し「もっと言えるようになりたい数はないか。」と問い、その数を中心にゲーム活動を通して練習を行うことを確認する。
挑戦する・広げる	5 "How many?game." (1) スキット 【よりよいコミュニケーションについて考える】 友達が正解したら誉めたり、英語で言えないときはジェスチャーを使ったらどうか。 (2) 数当てゲーム たくさんの人に問題を出したり答えたりしたいな。話合いで出てきた賞賛の言葉などを意識して問題を出したいな。	数や数を表す英語だけを使えば、クイズを出したり答えたりできそうだね。簡単にできそうだね。	20	○ よりよいコミュニケーションとは何か考えさせるために、HRTとALTでただ数を尋ねて答えるだけのスキットを行う。その際に、賞賛の言葉がコミュニケーションを円滑に進めるために必要なことに気付かせるために、「問題を出す人はどんな工夫ができるか。」と問う。
振り返る	6 Presentation 7 Reflection たくさん答えたり尋ねたりできたよ。ほめられると気持ちがいい。次も、笑顔で話したり聞いたりしたいな。 英語を使うだけでなく、ジェスチャーなどたくさん工夫をすると気持ちがいいね。		5	○ コミュニケーションを工夫するよさを味わわせるために、賞賛の言葉を観点としてペアや全体で交流する場を設定し、ゲーム活動の中で実践させる。
	8 Ending			○ 活動の達成感を味わわせるために、活動の中で慣れ親しんだ数や数を尋ねる英語や、賞賛の言葉、ジェスチャー等の観点を基に活動の感想を交流する場を設ける。